

	実態と課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度全国学力・学習状況調査では、全体で都の平均より13ポイント、RSTの結果では、基礎的読解力の5/6の視点において平均よりも上回っており基礎的、基本的内容の理解については概ね定着していると言えるが、定着していない児童との差が大きい。 漢字の定着、活用する力が、身に付いている児童と身に付いていない児童の差が大きい。 記述式の問題や作文等において、条件を満たした記述や、自分の考えを整理して記述することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間を使ってNIEに取り組む。様々な新聞記事を読み、短い時間で幾つかの問題に取り組むことでその記事が何を伝えているのかを読み取る力を身に付けさせる。 漢字の学習を繰り返し行い、定着を図る。また、学習の中で既習の漢字を使うように声を掛けることで習慣化させる。 様々な文種の文章に触れ、それぞれの文種で文章を書く経験を重ねることで、条件に合った文章表現を意識付けさせる。自分の考えを文章で表す活動に慣れさせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置、国土の特色といった基本的な知識を身に付けることができている児童と身に付けていない児童の差が大きい。 資料の読み取りにおいて、2つの資料を比較してその特徴を捉えたり多角的に考えたりすることが苦手な児童がやや多い。 現在の政治の仕組みや社会のあり方などに興味や関心が薄い児童が多い。 歴史的事象の時間的な関連の把握に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を押さえるために、地図帳を活用したり、電子機器や掛け図を使って互いに問題を考え出し合ったりすることで、基本的な知識を身に付けることができるようにする。 資料を読み取る観点を明確にし、始めはワークシートなどを用いて2つの資料を観点ごとに比較できるように指導する。 メディア等を活用して社会の現状や身近な話題に目を向けさせ、自ら課題を見つけて解決していけるような学習の場を設定する。 各時代の関連を新聞などにまとめる活動を設定する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度全国学力・学習状況調査では、全体の正答率が都の平均より14%高く、基本的な内容は概ね定着しているといえる。しかし定着している児童と定着していない一部の児童との開きがある。 同調査の各領域の問題の正答率は、A(数と計算)、C(変化と関係)、D(データの活用)領域において85%を超えている一方で、B(図形)領域の正答率が68%と低い。 同調査の観点別の正答率は知識・技能が86%なのに対し、思考・判断・表現が76%と低く、問題文から必要な情報を正しく読み取り、式や図に表すことに課題のある児童が多い。 同調査の問題形式別の正答率は、選択式が82%、短答式が88%なのに対し、記述式が68%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の少人数指導を行う中で、個々の課題を把握して個に応じた指導を行っていく。苦手意識のある児童に対して苦手意識を減らせるよう個別に指導を行う。 どの図形の学習でも、辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を理解させ、筋道立てて説明する活動を行う。 教科書の問題文から「分かっていること」「分からないこと」を読み取り整理する活動を設定する。また、既習内容を用いて児童が問題をつくる活動を取り入れる。 学習において、答える際に式や答えだけでなくなぜそのように考えたのかを言語的に説明させる活動を多く取り入れていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の中で、自然事象から問題を見いだすことに苦手意識をもっている児童が多い。また仮説を考えるときに、自分の経験や既習事項をもとにしながら、検証可能な仮説を考えることが難しい児童がいる。 実験計画を立てる際に条件制御を意識することはできるようになっているが、実験方法などを適切に理解して実験に取り組むことが難しい児童が多い。 令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、理科の授業の内容はどのくらい分かりますかという質問に肯定的な回答をした児童が93%なのに対し、理科の学習はどのくらい得意ですかという質問に対し肯定的な回答をした児童は72%に留まっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象提示の工夫や文型の提示などを通して、一人一人が問題を見いだせるようにしていく。また仮説を考える際に自分の経験を想起させ、話し合い等を通して検証可能性を考えられるように声掛けを行っていく。 実験計画を児童に考えさせる回数を増やし、実験前に結果の見通しを明確に書かせることで主体的に実験に取り組めるようにしていく。 問題解決を通して理解をするだけでなく、主体的に問題を解決できたことの喜びを感じられる機会を増やし、達成感や有用感を感じられるように指導・声掛けを行っていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 頭声的発声で、声の響きを意識して意欲的に歌う児童が増えたが、自分の歌声に自信をもてない児童もいる。体全体でリズムを感じ取りながら、伸びやかな声で歌う児童が増えた。また、明瞭で聴き取りやすい発音を目指して、二部合唱に取り組んだが、発音が不明瞭で、明瞭な発音を意識して歌うことができない児童もいる。 器楽の学習にも意欲的に取り組んでいるが、ソプラノリコーダーでは、タンギングの技術がまだ身に付いていない児童がいる。緑小音楽隊では、担当楽器の練習に励み、学年全体で心を合わせて演奏することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歌声に自信をもてない児童の理由は様々あるが、男子の変声期の児童については、1オクターヴ音程を下げて歌ったり、無理のない範囲で声を出すようにしたりするなどして、一人ひとり児童の状況に応じて指導していく。 感染症対策の為に、ソプラノリコーダーの学習時間を確保することが難しかったが、映像を活用するなどして、タンギングの方法を身に付け、自分が出している音をよく聴きながら演奏できるように、指導方法や場の設定の工夫をする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に意欲的な児童が多いが、既成のデザインや形にとらわれ、新たな表現をすることを躊躇したり、発想を深めることに苦手意識をもったりする児童もいる。 用具の取り扱いに慎重な児童が多く、安全に留意しながら道具を扱うことができる。 自分の活動を振り返り、制作の見通しをもったり、友達や自分の作品のよさを見付けたりして、自己肯定感や達成感を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具・表現方法の選択の幅をもたせることで、自分の作品のイメージを明確化していけるよう援助する。またコマ撮りアニメや描画キャンパスなどICTを活用した題材を取り入れ、気軽に発想を広げる機会を増やす。 5分間スケッチを活用し、用具についての興味と理解を深め場面に応じて道具を使い分けられるように助言する。また作業動線を確保し安全面に配慮する。 活動手順の板書や振り返りプリントを使って、活動の見通しをもたせたり、作品のよさを具体的に伝えあって、自己肯定感を

	く必要がある。	高めたりする機会を多くもつ。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を良くする児童とそうでない児童の差が広がっており、体力や運動能力の二極化が進んでいる。また、休み時間は室内で過ごす児童が多い。 ・運動のポイントが分からず、技能面の習得で苦労している児童がいる。 ・よりよいゲームのための提案をしたり、ゲームで生かせる簡単な作戦を立てたりすることができる児童が増えつつある。 ・場や用具の準備をすばやく終わらせることができる。また、ルールを守って取り組み、運動を楽しみながら親しんでいる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に使える遊び道具を充実させ、すすんで運動に取り組もうとする意欲を高める。 ・掲示物や学習カードを用意し、児童が運動のポイントを把握できるようにする。また、一人一台端末を活用して自分の動きを振り返ったり、協働的に学習に取り組んだりする機会を増やす。 ・児童のよい動き、よい発言、よい考えを褒めるようにしていく。また、振り返りの時間などで共有することで、クラス全体に広める。